

火熱を利用することによって、人間は料理をする動物になった。それは、人類の食生活における革命であった。熱することによって、食材に含まれる有害物が無害化されるし、固い食材をやわらかくして、歯のわるくなった老人でも食べられるようになる。そのままでは消化できないものも、吸収しやすくなる。この料理革命によって、人類の利用可能な食材の範囲が飛躍的に拡大し、陸地のほとんどの場所に人間が居住可能になったのである。

料理専用の火が独立して、かまどやレンジなどに分化する以前は、炉が家族生活の中心であった。料理つくり、暖房、照明の機能をかねる炉の炎をかこんで、人びとは暮らしてきたのである。

火は家庭生活の象徴であり、生活の中心に燃える火が消えることは、生活の活力が失われることであると考えられた。そこで、炉の火を絶やすことを不吉とした社会もおおい。また、火は悪霊を追い払って清める作用をもつと信じられた。そのいっぽう、火はすべてを焼きつく

す恐ろしいものでもある。そこで、おおくの文化に、聖なる火の観念がみとめられる。祭りの松明行列、不滅の法灯、おけら火、台所の荒神様のお札など、日本にもその伝統はのこっている。

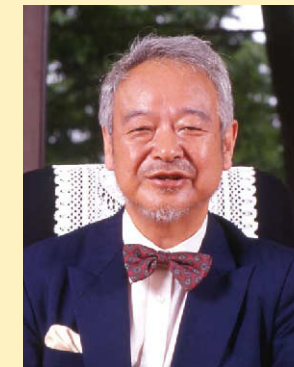
危険な火を飼い慣らし、火を安全に管理することが、家庭の願いであった。それを実現したのが、ガスの火である。薪割りや、火起こしの手間もなしで、コックのひねり具合で炎を調節でき、煙のない台所が成立したのである。

その後、電熱器、自動炊飯器、電磁調理器など、安全な熱エネルギー利用の調理器具が日本の家庭の台所にはいつてきた。それでも、ガスレンジが料理つくりの主役であり続けている。

炎のない道具では、火を使っている実感がおこらないのである。ガスの青い炎には、人類と火のながいつきあいが象徴されているものようだ。



コヒマ(インド・ナガランド州)の台所



石毛 直道  
国立民族学博物館館長。  
1937年千葉県生まれ。専攻は文化人類学、食人類学。特にアジアの食事文化、酒と飲酒の文化などの研究で知られ、食文化ブームの火付け役でもある。農学博士。著書に『住居空間の人類学』『リビア砂漠探検記』『食卓の文化誌』『食いしん坊の民族学』『ハオチー！鉄の胃袋中国漫遊』『文化種類学とはじめ』『講座 食の文化』など。

## 火・食の民族学

生活の中心に燃える火 -  
火は人類の食生活に革命をもたらした

国立民族学博物館長 石毛 直道  
Naomichi Isbige

人類史における最大の出来事は、人間が言語をしゃべる動物になったこと、火を利用する動物になったことである。人間は言葉をもつことによって、高度な情報処理が可能になり、複雑で豊かな精神活動をするようになった。言語が精神革命をもたらしたのである。

火の使用は、エネルギー革命として位置づけられる。人間以外の動物は、自らの身体的エネルギーで自然に対応する。火という身体外にあるエネルギーを利用するのは、人間だけである。畜力、水力、風力、電気、原子力など、さまざまなエネルギーの利用がなされるようになるが、人力以外で人間が最初に利用したエネルギーは火である。

照明、暖房などの場合は、火のエネルギーが直接人間の身体に作用する。しかし、おおくの場合、火は自然を変化させ、自然を人間に使いやすくなるための媒介物としてもちいられる。粘土の器を加熱して土器をつくる、鉱石を溶かして金属加工をする、森林を焼いて狩猟をしたり、焼き畑農業をおこなうなど、火のエネルギーを紹介し、人間は自然を利用してきたのである。

### 大正中頃の宣伝チラシ



ガスのない家

表紙のイラストは、大正中頃から昭和初期の宣伝チラシの一部。当時の新燃料であるガスの利便性を訴えています。都市ガスが、広く家庭の台所に受け入れられるまでには、かなりの年月がかかりました。

### ガス器具のチラシ・カタログ・小冊子の表紙より



最初ガス炊飯器  
1958年

炎と食という古代からの人類の営み。20世紀の初め、都市ガスの炎は、食と出会いました。それから約100年、その時代時代に、豊かな暮らし、新しいライフスタイルを提案してきました。このリーフレットが、炎と食の歴史を振り返り、21世紀の食と暮らしを考えていただく小さなきっかけになれば幸いです。  
大阪ガス株式会社 炎と食研究会

CEL

リーフレット制作：炎と食研究会  
大阪ガス エネルギー・文化研究所  
〒530-0017 大阪市北区角田町8-47  
阪急グランドビル15F

リーフレットに関するお問い合わせは  
KB (06-6228-3315)まで

© 2002 OSAKA GAS CO.,LTD

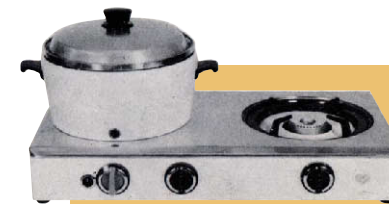


昭和初期国産ガスオーブン



# 炎と食

日本人の食生活と火



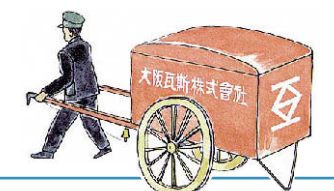
炊飯器付きガスコンロ(1960)



昭和初期の軽便レンジ



大阪瓦斯株式会社



ガス器具等を出張販売したカートマン(大阪ガス創業時)

